

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26420643

研究課題名(和文) 三輪神道系大工儀礼書の研究

研究課題名(英文) Study of Miwa Shinto carpentry ceremonial book

研究代表者

宮内 貴久 (Miyuchi, Takahisa)

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：10327231

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：三輪神道系大工儀礼書の所在調査と、その内容の検証を行った。三輪神道系大工儀礼書で最古の物は、茨城県歴史館所蔵の普門寺史料「番近大事17通」の1543(天文12)年である。所在調査の結果、秋田、福島、埼玉、東京、静岡、石川、大阪、京都、奈良、和歌山、兵庫、長崎に存在することが明らかとなった。現在でも巻物を伝授しているのは福島県奥会津地方のみであることが明らかとなった。

三輪神道系大工儀礼書には、大工の始祖を天津児屋命、天津児屋命・手木帆負命・彦狭智命、天津児屋命と中国の伝説的工匠である班輸(魯班)に求める三つがある。

研究成果の概要(英文)：I investigated the location of Miwa Shinto carpentry ceremonial paper and verified its contents. The oldest thing in the Miwa Shinto carpenter's ceremonial book is the 1543 (astronomy 12) year of the Futemonji historical collection of the Ibaraki prefecture historical kan "17 times closest importance". As a result of the location survey, it became clear that it exists in Akita, Fukushima, Saitama, Tokyo, Shizuoka, Ishikawa, Osaka, Kyoto, Nara, Wakayama, Hyogo and Nagasaki. It is now clear that only the Oku Aizu district of Fukushima Prefecture is the one that teaches scrolls.

研究分野：民俗学

キーワード：大工儀礼書 三輪神道 魯班 建築儀礼 由緒

1. 研究開始当初の背景

日本建築史学において、木割書研究は内藤昌らの研究により『日本番匠記』系本の系統など書誌学的研究、あるいは法隆寺の大工に伝わる『愚子見記』の翻刻と解説など1980年代に後半に一応の研究成果かがあげられた[内藤1988]。こうした日本建築史学の木割書研究は、建仁寺流、四天王寺流など近世の大工集団が保持した技術・由緒・儀礼次第の概略が解明された。

大工が所蔵する儀礼書に関する研究では、内藤昌が荻生徂徠の『政断』を引用して17世紀末の江戸の大工は巻物を所持していたこと、近世を代表する大工集団間では17世紀頃から由緒・儀礼次第が記された巻物が作成されたことを報告しており[内藤1981]、江戸幕府作事方大棟梁を務めた甲良家は『神拝式書』という儀礼書を所蔵している[国立歴史民俗博物館1996]。この他にも永井則男[永井1984]や、高橋恒夫[高橋1988]、狩野勝重[狩野1989]の研究などがある。高橋は東北地方の大工が所蔵する29点の儀礼書について、その内容・系譜関係を検証している。儀礼書に関する研究は木割書研究に比べると極めて少なく、在地の大工集団の由緒書・儀礼書まで解明されたわけではない。

本研究は、書籍・出版が媒介する知識が各地の大工に果たした歴史的役割とその歴史的意義を考察する。文字を操る大工の民俗社会での位相について明らかにする。特に大工儀礼書に多大な影響を与えたと考えられる三輪神道と大工と関係について解明する。東北地方の大工が、なぜ三輪神道系の大工儀礼書を受け入れたのか、その実態を解明する。この四点を研究の目的とする。

申請者は、福島県奥会津地方を中心にして大工の系譜関係・儀礼書について調査研究を進めてきた。その結果、福島県金山町の田邊空之進という大工が、宝暦年間に水戸の大工大畑彦左衛門から伝授された『番匠十六巻一流之大事』という大工儀礼書が伝授されたこと。同巻は現在でも奥会津地方の大工の間で伝授されていること[宮内2002]。同巻と同じ内容の巻物が、埼玉県秩父郡皆野町、徳島県阿南市、石川県金沢市にも存在していること。同巻は三輪神道の系譜を受け継ぐことを解明した[宮内2009]。また、竹中道具史料館所蔵(兵庫県神戸市)の大工儀礼書が増穂残口という享保期の神道家が記したこと、福井県越前市で『日本番匠記』という内題を持つ大永5年(1525)の銘を持つ巻物が『日本番匠記』系本であること、大工自身が積極的に文字知を獲得していることを明らかにした[宮内2008]。

さらにその後の調査で、三輪神道系統の大工儀礼書は東北から九州まで全国的に分布していること[宮内2012、2013]。「番匠十六巻一流之大事」系本だけでなく、「一八系統」も存在すること、三輪神道系大工儀礼書は高野山(真言密教)が元であること

を解明し[宮内2009]、大工儀礼書研究は日本建築史学の新たな研究分野になり得る重要な研究分野であることを指摘した。

歴史学では、近世を通じて唯一(吉田)神道が、神道の体系化・支配を進めたことが明らかにされており、井上智勝の研究が詳しい[井上2007]。申請者の調査でも、「唯一神道上棟次第」など唯一神道系の大工儀礼書を全国各地で確認することができた。唯一神道と大工との関係については説明が可能ではある。しかし、三輪神道と大工との関係については、修験など真言密教系宗教者の活動が推測されるが不詳な点が多くなぜ全国的に流布したのか、東北地方での実態の解明が必要であると考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、三輪神道が大工儀礼書の内容にどのような影響を与えたのか、三輪神道系統大工儀礼書が全国的に流布しているが、どのような経緯で流布したのか、三輪神道と大工集団との関係はどのようなものだったのか、東北地方の大工が、なぜ三輪神道系の大工儀礼書を受け入れたのか、その実態を解明することを目的とする。

3. 研究の方法

これまでの調査研究で、高野山史料から三輪神道系儀礼書の方が唯一神道系の大工儀礼書よりも古い、現代でも書写されていることが明らかとなった。以上のことから、大工儀礼書研究の中でも、三輪神道系大工儀礼書研究は、日本建築史学研究の重要な研究分野であり、それは歴史学・民俗学にも重要な領域であると考えられる。

本研究では、三輪神道系統の大工儀礼書「番匠十六巻一流之大事」「番匠拾八通之切紙」を中心にして、その所在調査を全国規模で行っていく。

また、これらの所在調査を行った上で、それぞれの儀礼書の地理的分布について検討し、これまで解明された大工集団との比較を行う。これまでの調査研究成果から、特に和歌山県の根来大工、高野山史料に注目していき、三輪神道と大工集団との関係について、修験など真言密教系の宗教者がどのように関与したのか、特に東北地方の大工儀礼書の実態を解明していく。

本研究の特色は、従来の研究が扱ってこなかった地方の大工が所蔵した儀礼書を研究対象とする点、それらの史料の全国的調査な所在調査をベースにしている点である。また、大工が所蔵する文書群を扱うことにより、大工がどのような木割書・儀礼書を読んで技術と知識を獲得したのか、どのような儀礼を執行し祝詞を作成したのかなど大工活動の実態を解明することが可能である。

これまでの申請者の調査研究によれば、従来の近世における吉田家の神道支配、中井家の大工支配とは別の側面を、三輪神道系大工

儀礼書という新たな史料から明らかにしようという点が本研究の独創的な点である。

このことにより、従来知られていない未見の史料を広く学界内外に紹介し、新たな日本建築史学の研究分野を開拓できる。中井家支配など従来知られていた大工支配・集団とは、また別のネットワークを解明できる。

文字文化を大工がどのように取り入れたかを解明できる、といった結果が予想される。そして、この研究成果は日本建築史学だけでなく、歴史学、民俗学に新たな知見を提供できるという意義がある。

4. 研究成果

全国各地で三輪神道系大工儀礼書の資料調査を行った。茨城県立歴史館所蔵の普門寺史料の「番近大事十七通」に天文12年という紀年名があり、管見では最古の史料である。従来の研究では三輪神道系大工儀礼書は中世末に遡るとされていたが、一次史料を明示した研究はない。この時点で天文12年の紀年名を持つ同史料は極めて貴重である。

奈良県桜井市の山本工務店は三輪神道系大工儀礼書を所蔵し、かつ今日でも建築儀礼で使用している点は極めて貴重である。会津以外で初めての事例である。同書は文政3年に大阿闍梨真昶から授与されたもので、真昶は文政7年に大阪で『三輪流神道 奈良大工兵衛尉朝清大事』の二つの三輪流大工儀礼書を作成した。同一人物が複数の儀礼書を作成した例は、今のところ真昶だけである。

儀礼書の作成者は茨城県の「番近大事十七通」(天文12年)の阿闍梨快秀、徳島県の「無題」(寛文元年)の高野山法印宥慈、和歌山県の「番匠十八通切紙」(寛永15年)の大僧都法印尊澄、和歌山県の「御流神道」(安政3年)の大阿闍梨道應、京都の「大工拾八通秘伝一卷極意」(寛政4年)の大阿闍梨仁道、長崎県の「大工口傳呪法」(慶長16年)の上人照尊、和歌山県高野山の「三輪神道大工部」(文政7年)の大阿闍梨真昶、明和4年の野上聖仙山別宮院僧快山文政7年の真恭・文政4年の大阿闍梨快巖などである。また、こうした宗教者が書写した文書とは別に、大工自らが書写した文書もあることが明らかとなった。

高野山大学所蔵「御流唯一神道傳授聞書」から三輪流神道秘傳の伝授する過程が明らかとなった。80項目の大事は五日間かけて伝授されることが明らかとなった。大工儀礼関係は二日間かけて伝授された。

竹中大工道具館所蔵史料から、書写本ではない三輪神道系大工儀礼書の版本が発見された点は特筆される。静岡県袋井市浅羽の岩松寺で作成された「太子内傳記」である。

三輪神道系大工儀礼書には、大工の始祖を天津児屋命、天津児屋命・手木帆負命・彦狭智命、天津児屋命と中国の伝説的工匠である班輸(魯班)に求める三つがある。

大工の始祖を 天津児屋命に求めるのは、

最古のものは、1543(天文12)年に阿闍梨快秀が書写した『番近大事十七通』(茨城県立歴史館所蔵普門寺史料)である。同書の「大工番近切紙一紙」には、「亦云大工ト云事天津児屋御身ノ子孫大神工神トテ二人御座ス也。」と、大工は天津児屋命の子孫で、大神と工神の二人がいるという。

「大工番匠切紙一通」など大工関係の諸大事は『三輪源流神道口訣中巻』に記されている。快巖は天津児屋根命に加えて、「手木帆負彦狭智文伊弉冉御子也。又太玉命御兄弟也」と手木帆負、彦狭智は伊弉冉の子ともであること、太玉命は兄弟であると述べている。この三神を大工の始祖とするのは、管見では1746(延享3)年6月21日に武州羽生領生善院で傳燈大阿闍梨耶教巖が記した『三輪流伝授作法集上』がもっとも古い[大神神社史料編修委員会編1982]。快巖が参照したのはこの『三輪流伝授作法集』かもしれない。同書の「大工番匠之切紙一通」に「天児屋根命、手木帆負彦狭智命」とある[大神神社史料編修委員会編1982 212頁]

福島県奥会津地方に伝わる『番匠十六巻一流之大事』は天児屋根命を大工始祖としている。しかし、他の文書が後半部分の「大工番匠之切紙一通」に記されているのに対して、『番匠十六巻一流之大事』では冒頭の「番匠児屋大事往古」に記されている。また、第二巻「細工箱之大事」には、天地開闢の時に大梵天王が初めて五明論を説き、その中の工巧明論という細工を説く御経が、大工の業の始まりであるとする壮大な神話と、班輸(魯班)の大工始祖の話が記されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

「福島県奥会津地方の建築儀礼と番匠巻物」宮内貴久、『祈りのかたち 知られざる建築儀式の世界』、無、22~23頁、竹中大工道具館

「電気冷蔵庫の普及と広告」宮内貴久、『歴博』196号、無、6~9頁、国立歴史民俗博物館、2016年

「昭和42年のチャグチャグ馬コ」宮内貴久、『岩手の民俗』第11号、無、87~88頁、岩手民俗の会、2015年

「中世から続く大工の家」宮内貴久、『環』第58号、180~187頁、2014年

〔学会発表〕(計9件)

「添い寝と育児の近代」岩手民俗の会第1回研究会、宮内貴久、2016年7月23日、於、いわて県民情報センター(アイーナ)

「高度経済成長期における添い寝 - 住宅不足問題と関連して - 」国立歴史民俗博物館共同研究会、宮内貴久、2016年3月20日、於、國學院大學

「高度経済成長期の住宅問題と育児 - 福岡市営弥永団地を中心に - 」国立歴史民俗博物館共同研究会、宮内貴久、2015年12月19日、於、お茶の水女子大学

「団地生活と家電製品」国立歴史民俗博物館共同研究会、宮内貴久、2015年10月4日、於、お茶の水女子大学

「市営弥永団地建設費」国立歴史民俗博物館共同研究会、宮内貴久、2015年5月16日、於、国立歴史民俗博物館

「戦後住宅難問題と団地の開発 - 福岡市営弥永団地を事例として - 」国立歴史民俗博物館共同研究会、宮内貴久、2015年3月2日、國學院大學

「昭和47年の『ある一日』 - 福岡市立弥永小学校区を中心に - 」国立歴史民俗博物館共同研究会、宮内貴久、2014年12月21日、於、お茶の水女子大学

「高度経済成長期における弥永団地の生活誌」国立歴史民俗博物館共同研究会、宮内貴久、2014年11月1日、於、お茶の水女子大学

「弥永団地の生活誌」国立歴史民俗博物館共同研究会、宮内貴久、2014年5月10日、於、東京ガーデンプレス

〔図書〕(計4件)

「明治期家相見の読書と戦略 - 松浦琴生を事例にして - 」、宮内貴久、横田冬彦編『本の文化史 読書と読者』、無、307~331頁、平凡社、2015年

「3. 住まいと装い 和服と洋装化、ジーンズ、手作りから既製服へ、家庭の味、食区炊くと家族団らん、団地、ニュータウン、電化製品のある暮らし」、宮内貴久編集、民俗学事典編集委員会編『民俗学事典』、無、185~221頁、丸善出版、2014年

「住まいと衣服」、宮内貴久、民俗学事典編集委員会編『民俗学事典』、無、185~187頁、丸善出版、2014年

「家相と風水」、宮内貴久、民俗学事典編集委員会編『民俗学事典』、無、220~221頁、丸善出版、2014年

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

<http://www.aesthe.ocha.ac.jp/miyauchi/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮内 貴久 (MIYAUCHI Takahisa)
お茶の水女子大学・基幹研究院・教授
研究者番号：10327231

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし